

傷のうるおい療法2

◎うるおい療法とガーゼ

「傷のうるおい療法1」では、この治療法の紹介を行いました。消毒薬を使わず、傷口を乾かさないように気をつけて治療を行う方法です。でも、何かで傷口を覆わないと傷口が乾燥してしまいます。傷口を覆う物としては、ガーゼ、また、自宅で使う場合は絆創膏などが思い浮かびます。絆創膏が傷口にくっついてはがす時に痛い思いをされた方はいませんか？あれ？くっつくって事は乾燥しているの？



◎ガーゼは傷を乾かす？

そのとおりです。ガーゼや絆創膏は傷を乾かします。傷口の水分を吸収して、傷口と反対側から水蒸気として水分を放出するので、傷は乾燥してしまうのです。傷がジクジクしている時は、ガーゼがこの「ジクジク」を吸い取っても次から次へとまた「ジクジク」が出てくるので、あまり乾燥はしません。ところが、ジクジクが治まって使っていると、とたんに乾燥し始めます。



◎消毒薬と抗菌薬



ところで、「傷のうるおい療法1」では消毒を行わないと述べました。では、消毒薬はもう不要になってしまったのでしょうか？

答えはNoです。確かに、傷口に使うのはよくないので、消毒よりも水などでよく洗うことの方が大切です。しかし、器具や傷になっていない正常な皮膚には消毒は有効です。正常な皮膚の表面には「角質(かくしつ)」というバリアがあって、その下にある生きた細胞を守っています。だから、消毒しても大丈夫なんです。消毒薬は、うるおい療法では使いませんが、他の場面ではまだまだ活躍の機会があります。

また、消毒薬と抗菌薬(抗生物質)を勘違いされる方もおられますが、両者は全く別物です。消毒薬はバイ菌とそれ以外の細胞を区別せずに攻撃しますが、抗菌薬はある程度区別しますし、内服したり点滴したりできます。うるおい療法でも抗菌薬を使用する場合があります。

◎洗っても傷の汚れが取れない時は？

擦り傷などで、傷の中に小石や砂粒が入り込んでいるような時は、水で洗っても取りにくいです。と言って、そのままにしておくのと治った傷跡の中に砂粒が残ったままになるかもしれませんし、そこから膿んでくる可能性もあります。そんな時は、お医者さんに行って、局所麻酔をしてから取り除いてもらいましょう。うるおい療法に詳しいお医者さんだと良いですね。



傷のうるおい療法は傷を治すことには優れた方法ですが、まだまだ問題点もあります。その中で、もっとも悩ましいのは創傷被覆材がまだまだ発展途上な事です。使い続けると、傷の周囲の皮膚がふやけてきたり、かぶれてきたりする事があります。

ドライスキンやアトピー性皮膚炎など、スキントラブルを抱えている方も対処が難しくなります。迷ったら自分で判断せず、専門家の判断を仰いでください。

